



種員作

國貞譚

下編二十

へ13
1178
24

白
五輯



十二編上

へ13
1178
23



白

五輯

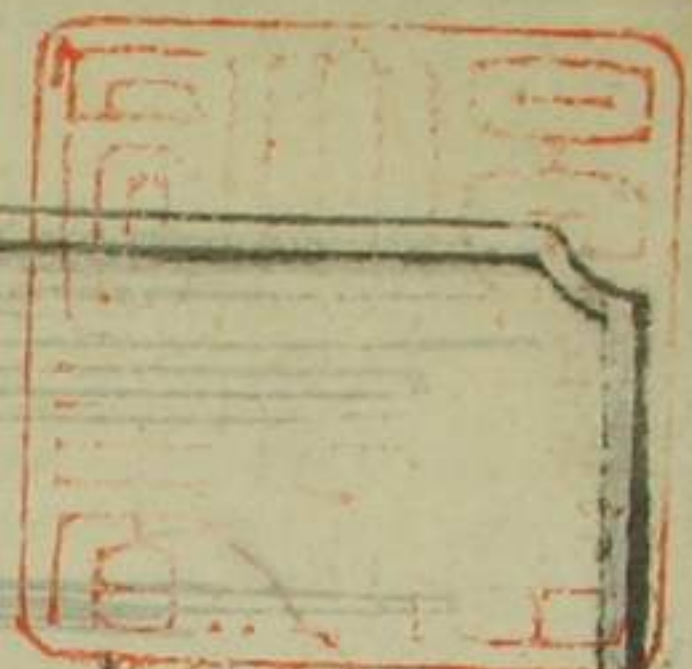


十二編上

へ 13

1178

23



1178
23

藤岡屋製

ふねひ

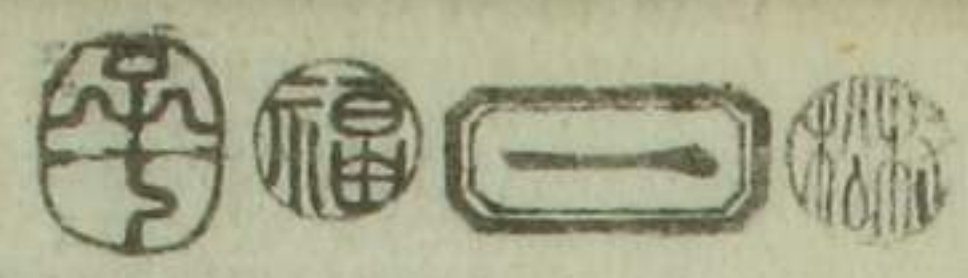
物のそり

種貞化 第十二編

國貞

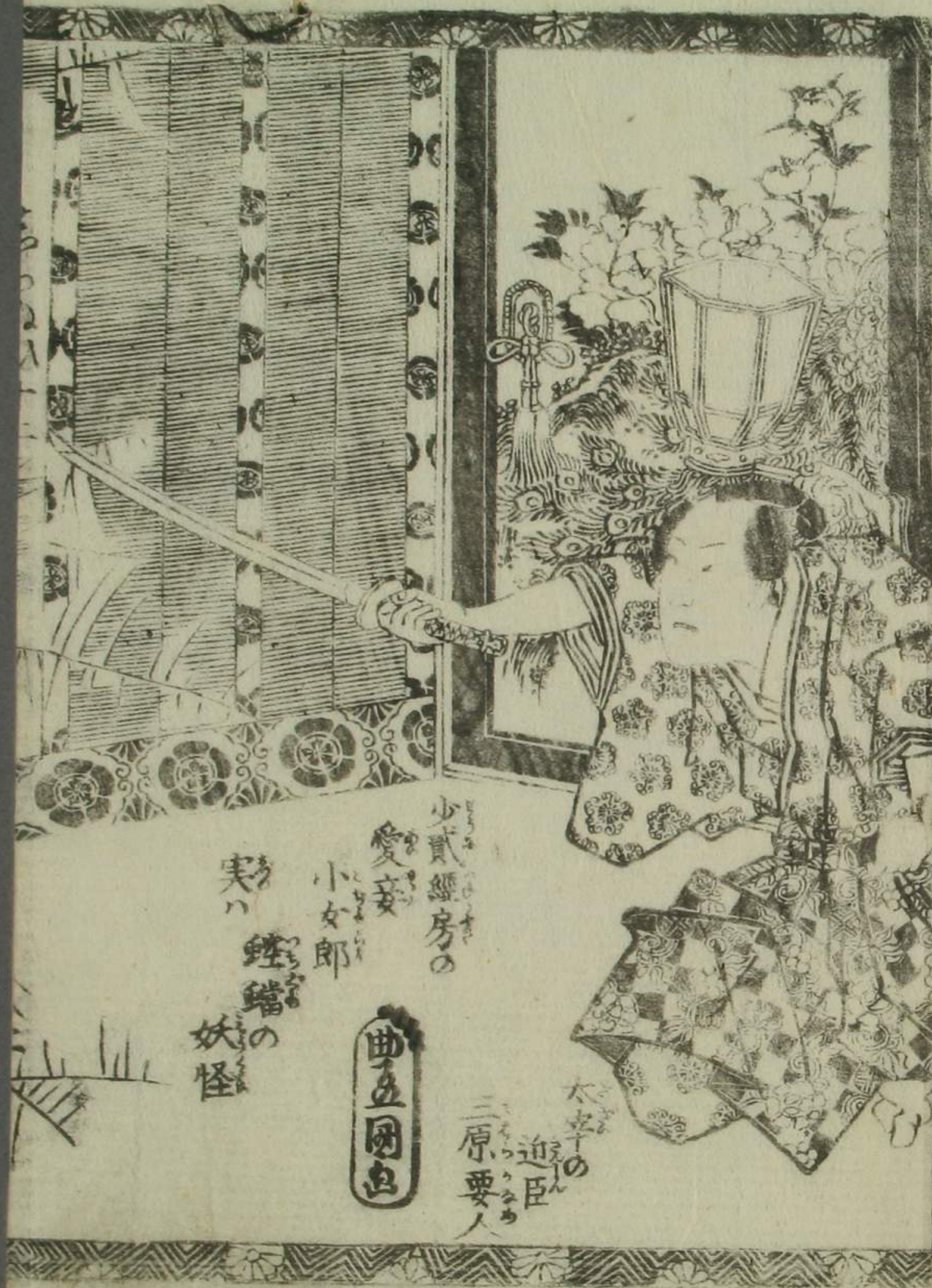
連

上冊



近松門左衛門の生涯本數種ある中、浄瑠璃の中核群る新奇の
 一種曾我會勢山と題号へ建久四年五月廿八日の明七と初段とが
 鎌倉の柳營より政子御前が御狩の獲物を御覽あるといふのう
 牙序祐成と時致が熱敵工藤の持家へ思ひて本望を達する場が夜
 結八と大切より十二段と十二時の昼夜の間は仕組入寅の上刻を
 發端とあり、丑の下刻ふ全趣向ふか、一部は工夫加え筆林
 子別が筆頭よりこれに數遍を繰返して讀み倦むる例の妙作
 彼兄弟が報讎言の十八年ものもの、その外は件院本を假
 借りと精年腹直る當歳漸此冊子の十編より十五篇
 つづれや、と昼夜の綴か、巻中の文どりて時刻を

あつる人十二



少貳經房の
愛妾
小女郎
実ハ 鯉鱒の
妖怪
曲五團丸
三原要人



太宰
武房の
後室
香壽



初意ありの拙筆に説くぬま十四編の舒詞り
 微細記に令童達の惑讀しめぬ一助とをてさるる
 此序を誌みおびて用度あり八編に鷺津六郎七郎名
 残の爲に老母が許し立寄條に十郎五郎が裾野の狩場發行
 して中村を出る吏と引用し不面暗合それ富岳の
 雪の色白縫の佳評もまた弥高く江湖上もこゝろ曾我殿原
 が小袖の模様衛や蝶もひきつゝ翼を生く飛ぶや
 四方に雫を混空に散れ幾面

嘉永壬子應鍾結稿
 同 癸丑上春發販

柳下亭種員記





さあか
こゝろをいふれ
つとむるもよきとらぬ
あふまふと日あふく
かきこゝろふくちの如人

さあか
こゝろをいふれ
つとむるもよきとらぬ
あふまふと日あふく
かきこゝろふくちの如人

さあか
こゝろをいふれ
つとむるもよきとらぬ
あふまふと日あふく
かきこゝろふくちの如人



さあか
こゝろをいふれ
つとむるもよきとらぬ
あふまふと日あふく
かきこゝろふくちの如人

さあか
こゝろをいふれ
つとむるもよきとらぬ
あふまふと日あふく
かきこゝろふくちの如人

さあか
こゝろをいふれ
つとむるもよきとらぬ
あふまふと日あふく
かきこゝろふくちの如人

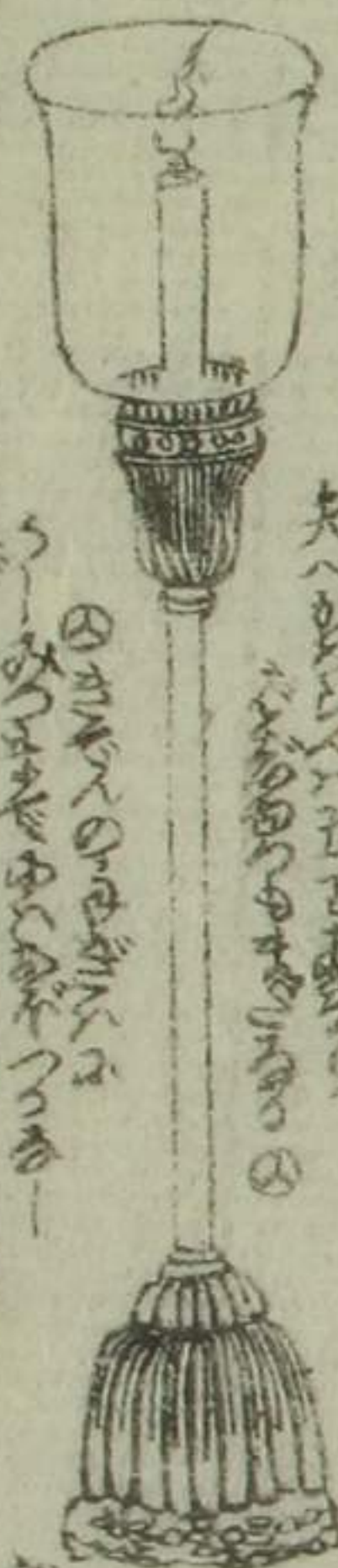
[illegible]

今のはるへあら
 たふとこのまじり
 えんとたをとりて
 たうふまのり
 りりやうお
 ひいてさる
 うんじんを
 ひきのつこも
 ちうへん
 まあむけ
 おろふき
 さるふ
 こころ
 ふくすま
 かんて
 わると
 かたふ
 のこ
 あふ
 ふうし
 なるさん
 ふうへん
 えんのちまたを
 はさるゝんて
 ともありけ
 まめといひのわたり
 とめいふとさうてかうちん
 The Japanese are called Kanji



卷之二十一



[illegible]

三三 公おれ
 めのふるとは三
 たち「のいふ
 工のさうと
 うややめを
 あをんとく
 くるまよ
 男一がのち
 せんがそちを
 のち

種員作國負画

土心丸

五拾四編リ柳亭種彦作
六十編マテ一惠齋共幾重

兩面織花田物語

初編 五編
迫り 迫り
同 同

畫作

假名類八大傳

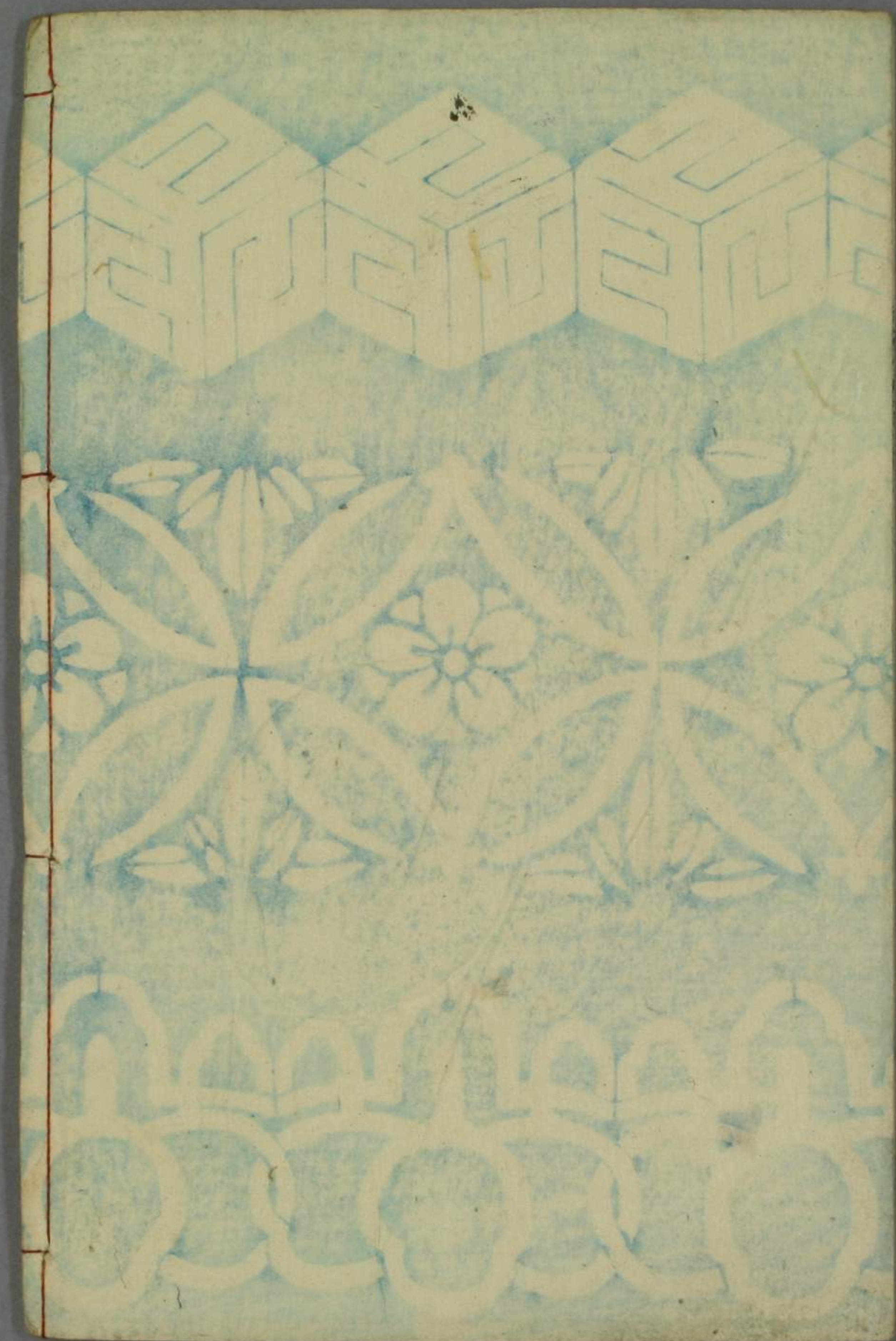
二十三編 假名垣魯文錄
二十五編 朝霞樓芳藥重

古今
能優
似顏大令

故豐國公羽筆
大錦百三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續惠齋芳幾圖



種員作

國貞

譚

縫



下編二十

へ13
1178
24

柳

下亭種員作

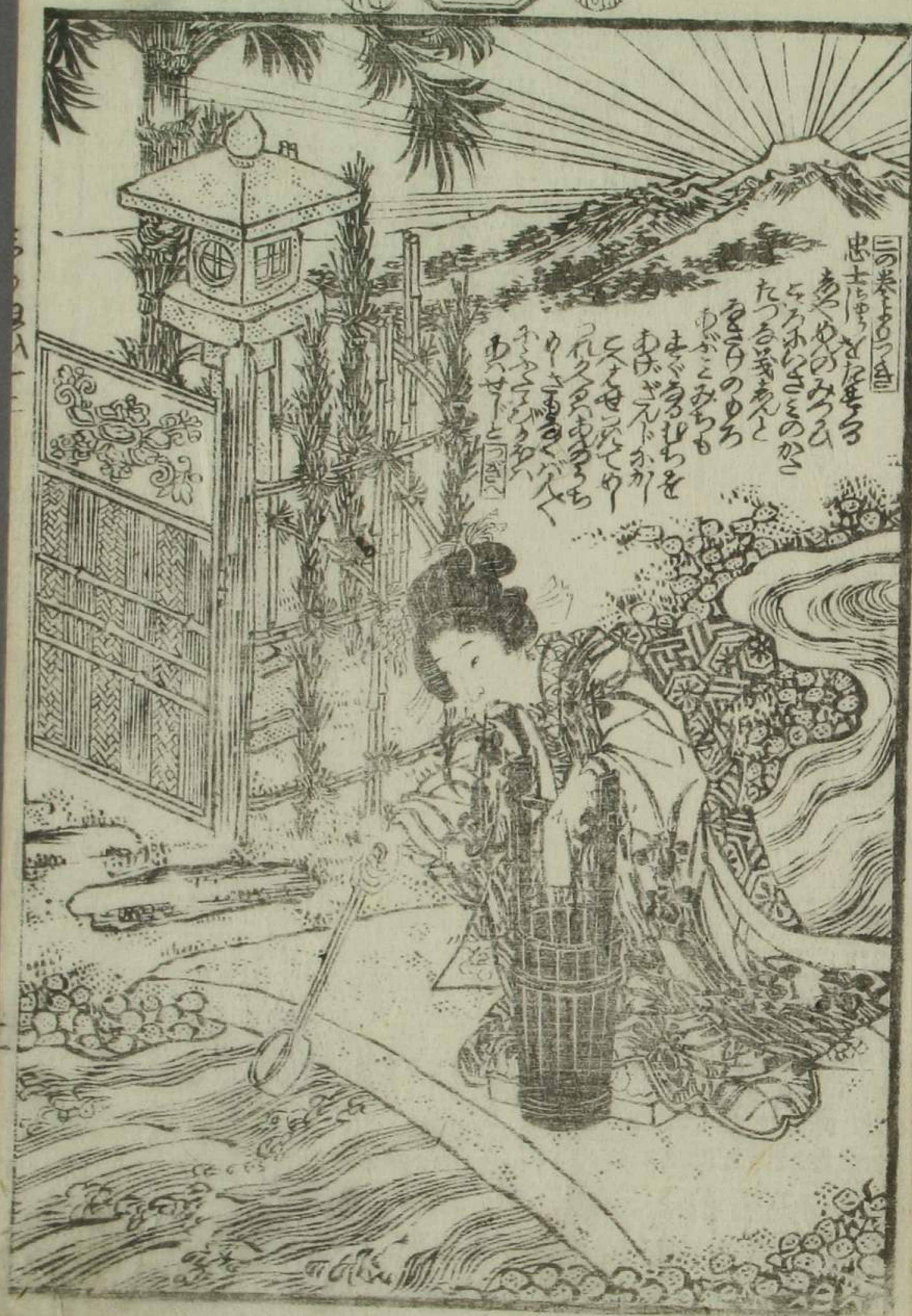
下冊

白縫譚第十二編

蝶樓貞画



1178
24





かゝるに
それなり
さういふ
それはや
あつた
口ひら
うき
うき
八
と
男を



かげふおとくをあら
はせられよきとらむれり
わんざうとくういふふあさひ
にまろふたのちしえ
のあつてとやまぬこと
またなるもせうじふ
いふふおち



夫れ失へ
 ぐららのつて
 まるゝ金華
 ちんはふつと
 一とまろろ
 ろりのやじと
 やせりひつと
 つくばしとそれ
 よりひようなま
 とけんたんと
 甘てあ人とじま
 まるかひのたま
 だんよあまふ
 こちぎまは失べから
 みつゝいそがひあ
 くのとりま
 かあえよとづつ
 るのとあり
 まふさうせてみ
 だまふいとあ
 そうあつのお
 とたてふか
 りよりま
 あこまりの
 らひさ
 どあまき
 なり
 なる
 うろ



[illegible][illegible]







種員作國貞画

乳母
秋篠が亡霊

ついでに
たてをなすとも
あらさるけり
ひ文十二入へつく

浄書
金川

名譽の義賊ハ
柳木金輔
七善の孝女ハ
枝三於市

浪輝黄金鯢

朝霞樓芳幾画

三編讀切

瀬川如泉
山々亭
惠齋
梅素
松湖
假名垣
可竹
其魯
文來
作

對男の縁の因て戲作劇場
三編 初編
其水作同
有人作同
交來作
其水同
其水如斯
持場茂
定め二五
筆力とて
寫當藏板
のあめ
ぬひ同
操御高評
し布ふ

地草紙四巻

江戸内川佐助
廣岡
助梓

